

**1 South Australia**

South Australia

- Barossa Valley
- Eden Valley
- Southern Flinders Ranges
- Cuneney Creek
- Kangaroo Island
- Langhorne Creek
- McLaren Vale
- Southern Fleurieu
- Coonswara
- Mount Benson
- Pachaway
- Robe
- Wrattonbully
- Riverland
- Adelaide Hills
- Adelaide Plains
- Clare Valley

**2 New South Wales**

New South Wales

- Murray Darling
- Swan Hill
- Perricoota
- Riverina
- Cowra
- Mudgee
- Orange
- Hunter
- Haastings River
- New England Australia
- Shoalhaven Coast
- Southern Highlands
- Canberra District
- Gundagai
- Cowra
- Tumbarumba
- Sydney
- Canberra

**3 Victoria**

Victoria

- Murray Darling
- Swan Hill
- Bendigo
- Goulburn Valley
- Heathcote
- Strathgogle Ranges
- Upper Goulburn
- Gippsland
- Alpine Valleys
- Beechworth
- Glenroven
- King Valley
- Rutherglen
- Geelong
- Macedon Ranges
- Mornington Peninsula
- Sunbury
- Yarra Valley
- Grampians
- Henry
- Pyrenees
- King Valley
- Rutherglen
- Geelong
- Macedon Ranges
- Mornington Peninsula
- Sunbury
- Yarra Valley
- Grampians
- Henry
- Pyrenees

**4 Western Australia**

Western Australia

- Peel
- Perth Hills
- Swan District
- Blackwood Valley
- Geographe
- Great Southern
- Manjimup
- Margaret River
- Pemberton

**5 Queensland**

Queensland

- Granite Belt
- South Burnett

**6 Tasmania**

Tasmania

- Tasmania

英: New Zealand

# ニュージーランド

仏: Nouvelle-Zélande

## I 概 略

美しい景観で知られるニュージーランドのぶどう栽培面積は29,310ha、ぶどう生産量は285,000t、ワイン生産量は2,052,000hlである(2008年データ)。ワイン生産地域は南緯36度から45度に位置し、その長さは1,600kmに及んでいる。北島、南島の2島には合わせて10の主要なワイン産地があり、全栽培面積のうち約77%は、北島のギズボーン、ホークス・ベイ、そして南島のマールボロに集中している。

ワイナリー数の増加も著しく、2007年には540軒を越え、さらに増え続けている。また総販売量は、2006年にニュージーランド史上初めて100万hlを越えたが、2008年は約135万hlとなった。このうち輸出が66%を占め、2005年から輸出が国内販売を上回る傾向が続いている。

ニュージーランドではソーヴィニヨン・ブランをはじめとするグレイエタル・ワインが高く評価されているが、なかでもソーヴィニヨン・ブランは全輸出量の約70%を占めている。また、近年の注目すべき点は、コルクの代替栓スクリューキャップの導入であり、現在では90%以上のニュージーランド・ワインがスクリューキャップ栓を使用しているとされる。

## II 歴史・気候・風土・土壌

オーストラリアのジドニーから派遣された聖公会神父サムエル・マースデンが、1819年ニュージーランド北島のケリケリ(Kerikeri)にオーストラリアから携えてきた100種余りの苗を植えたのが始まりとされる。その後1833年には同じくオーストラリアから監督官として渡ったジェームズ・バスビがフランスやスペイン原産のぶどう品種をオーストラリア経由でワイタンギ(Waitangi)に植え付けた。チャールズ・ダーウィンはビーグル号で南太平洋探検の途上、ニュージーランドに立ち寄り、ぶどうが栽培されていることを記録に残している。フランスからは聖マリア会の修道士が1851年北島のホークス・ベイにおぶどう畑を開拓。1897年にはワイロキセラがワカピラウ(Waikapirau)で見つかったが、1902年にはロメオ・ブラガートがオーストラリアからアメリカ系台木に接木する方法を取り入れ解決した。今世紀に入ると、オーストラリアの西オーストラリア州と同じくタルマチア移民がオーストラリア近郊でワイン生産に励んだ。ワイン産業の礎は彼らによって築かれたといっても過言ではなく、現在もその子孫によるワイナリーが存在している。

第2次世界大戦を境に酒類強化ワインからテーブルワインに消費傾向が移り、オーストラリア大手資本の進出、ミューラー・トゥルカウによる甘口の軽い白ワインが普及。1973年マールボロ地区でのソーヴィニヨン・ブランの植樹とワイン醸造の成功が世界の注目を集め、高品質の生産国であることを認めさせるのに大きな貢献を果たした。

周囲を海に囲まれているため海洋性気候で、季節による激しい温度差はなく、真夏の平均最高気温も高いところで24.6℃となっている。ニュージーランドは「一日のなかに四季がある」といわれるほど昼夜の気温差があり、このためぶどうは糖やかに成熟するだけでなく、酸味を失わずに凝縮した風味がフランスよく得られ、エリガントで明快な果実味をもつワインを生む。土壌は全体的に肥沃であり、度重なる火山活動や地震のため地質も入り混じっている。

### Ⅲ 主な栽培ぶどう

品種別栽培面積 (ha)

〔白ぶどう〕		〔黒ぶどう〕			
	2000	2008		2000	2008
Sauvignon Blanc ソーヴイニヨン・ブラン	2,485	13,988	Pinot Noir ピノ・ノワール	1,126	4,650
Chardonnay シャルドネ	2,858	3,881	Merlot メルロ	674	1,363
Pinot Gris ピノ・グリス	130	1,383	Cabernet Sauvignon カベルネ・ソーヴイニヨン	671	516
Riesling リーゼリング	503	917	Syrah シラー	62	278
Gewürztraminer ゲヴルツトラミナー	145	316	Cabernet Franc カベルネ・フラン	121	166
Sémillon セミヨン	235	199	Malbec マルベック	69	156
Muscat Varieties マスカット各種	188	135	Pinotage ピノ・タージュ	75	74
Müller-Thurgau ムラー・トルガウ	430	79	その他	211	1,087
Reichensteiner ライヒェンシュタイン	64	72	合計(白ぶどう+黒ぶどう)	10,197	29,310
Chenin Blanc シェナン・ブラン	150	50			

出典：New Zealand Wine growers Vineyard Surveys.

ソーヴイニヨン・ブランをはじめ、ヨーロッパの優良品種の栽培が増加している。栽培面積はソーヴイニヨン・ブラン(45%)、ピノ・ノワール(16%)、シャルドネ(13%)の順となっている。

### Ⅳ ワインの法律と品質分類

ニュージーランド食品衛生安全局(NZFSANZ)が、オーストラリア・ニュージーランド食品基準規約、1981年制定の食品法、2003年の改訂ワイン法など一連の法律に基づいてワイン生産の基準とラベル表記を管理している。ラベル表示については、2007年のワインレーズンより85%ルールが適用されることとなり<sup>※1)</sup>、品種名を表示する場合は85%以上該当品種を、収穫年を表示する場合は85%以上該当年のぶどうを、産地名を表示する場合は85%以上該当産地のぶどうを使用しなければならぬ。また品種、収穫年、産地をラベルしているワインで、これらの名前を表示した場合は、85%以上表示した品種、収穫年、産地のぶどうを使用しなければならない。複数の品種名、収穫年、産地名を表示する場合は、使用比率の多い順に表示する。

※1) 2006年ワインレーズンまでは、75%以上使用していれば、そのぶどう品種を表示することができた。

また2006年11月に、ワインとスピリッツ類に関する地理的呼称(Geographical Indications: GI)制定法が成立し、細則施行は2010年以降となる模様。GI法は1994年に一度、議会を通過したものの、諸事情により施行されていなかったのだが、今回、94年のGI法を改訂した法案が通過し、施行されることとなった。今後、この新しい法律をもとに、GIが制定されていくことが決まっている。

### Ⅴ ワインの産地と特徴

ニュージーランドは南北2島に分かれ、それぞれに特徴ある生産地を有す。

地域別栽培面積 (ha)	2000	2008
Auckland オークランド	393	534
Waikato/Bay of Plenty ワイカト/ベイ・オブ・プレンティ	119	147
Gisborne ギズボーン	1,681	2,142
Hawkes Bay ホークス・ベイ	2,443	4,899
Wairarapa/Wellington ワイララパ/ウェリントン	327	855
Marlborough マールボロ	4,054	15,915
Nelson ネルソン	203	794
Canterbury/Waipara カンタベリー/ワイパラ	442	1,732
Otago オタゴ	280	1,522
その他	255	770
合計(白ぶどう+黒ぶどう)	10,197	29,310

出典：New Zealand Wine growers Vineyard Surveys.

地 区	緯度	標高 (m)	積算温度 <sup>※</sup> (°C)	降水量 <sup>※</sup> (mm)	日照時間
Northland ノースランド	35.10	79	1,536	842	2,086
Auckland オークランド	36.51	4	1,617	663	1,999
Waikato/Bay of Plenty ワイカト/ベイ・オブ・プレンティ	37.25	32	1,395	590	2,390
Gisborne ギズボーン	38.41	5	1,468	522	2,225
Hawkes Bay ホークス・ベイ	39.39	9	1,270	387	2,297
Marlborough マールボロ	41.07	30	1,189	381	1,978
Nelson ネルソン	41.21	110	1,175	562	2,527
Marlborough マールボロ	41.31	31	1,127	398	2,448
Canterbury カンタベリー	43.04	64	1,117	379	2,124
Central Otago セントラル・オタゴ	45.02	213	989	276	2,225

※生育期(10~4月)の総計

出典：Wine Atlas of New Zealand by Michael Cooper. Publisher: Hodder Moa Beckett, 2002.

#### 1 北島

##### (1) ノースランド (Northland)

白：シャルドネが主

黒：カベルネ・ソーヴイニヨン、メルロなど

ノースランドはニュージーランドぶどう発祥の地。北部西海岸のカイタイア (Kaitiaki)、北東海岸のザ・ベイ・オブ・アウラズ (the Bay of Islands)、ワンガレイ (Whangarei) の3地区に分かれる。水捌けのよい火山性砂質粘土層の上に浅い粘土層が広がる土壌をもつ。平坦な土地や、緩やかな丘陵にカベルネ・ソーヴイニヨン、メルロ、シャルドネが栽培されている。

##### (2) オークランド (Auckland)

白：シャルドネが主、ソーヴイニヨン・ブラン、ピノ・グリス、ゲヴルツトラミナーなど

黒：カベルネ・ソーヴイニヨンとメルロが主、カベルネ・フラン、ピノ・ノワール、シラーズ、マルベック、ピノタージュなど  
オークランド市郊外の西部および北西部のヘンダーソン (Henderson)、クメウ (Kumeu)、ワパパイ (Huapai)、ワイマウ

ク・ザレレー (Waimaoku Valley)、イフマタオ (Ihumatua)、北部のマタカナ (Matakana)、南部のクレヴトン (Clevedon) とワイヘケ島 (Waheke Island) にぶどう畑が点在する。その多くはヨーロッパからの移民たちによって興された。他の生産地より気候、土壌において多様性に富む。一般的に火山性玄武岩の赤茶色をした粘土質がベースで、砂質ロームや粘土質ロームの土壌。北に行くに従い、平均気温は高くなり、降水量もやや多くなる。シャルドネ、ソーザイニオン・ブラン、ジュナン・ブランは南部の産地とは際立って異なる風味をもつ。一方、カベルネ・ソーザイニオンにメルロやカベルネ・ブランをブレンドしたボルドー・スタイルの赤ワインも造られている。ヘンダーソンやクマウ、ワアパ地区ではギズボーン、ホークス・ベイ、マールボロから原料ぶどうを購入、醸造しているワイナリーもある。

(3) ワイカト (Waikato) / ベイ・オブ・アブunden (Bay of Plenty)

白：シャルドネとソーザイニオン・ブランが主、ジュナン・ブラン、セイベルなど  
黒：カベルネ・ソーザイニオンが主、ピノ・ノワール、メルロ、マルベックなど  
オーランド南部からワイカト北部の肥沃な牧草地帯から豊富な食料を得ることができたことで、クック船長がベイ・オブ・アブunden (豊富な湾) と名づけた果樹地帯を含む広範囲にわたる産地。ワイカトは、北はポケノ (Pokeno) やチカムス (Thames)、南はケンブリッジ (Cambridge) までの一帯を指す。ここでは、ニュージーランドワイン産業の研究・開発の中心だったチ・カウワタ研究所 (Te Kauwhata) があった。湿度がやや高いワイカトには小さなぶどう畑が点在し、貴腐ワインのほか、シャルドネやソーザイニオン・ブランの辛口タイプも造られている。排水性に優れた、もろい茶褐色の肥沃な土壌のベイ・オブ・アブundenではギズボーンやホークス・ベイのぶどうを加えてワインを造ることもある。

(4) ギズボーン (Gisborne)

白：シャルドネが主、ミュスカ、セミヨン、ミューラー・トカルガウ、ゲヴェルツトトラミネル、ライシェンシュタイナー、ソーザイニオン・ブラン、ジュナン・ブラン、リースリングなど  
黒：メルロが主、ピノ・ノワール、ピノタージュなど  
北島東部の海岸部にある地区で、日付変更線に近接する世界最東端のワイン産地。1769年にクック船長が初上陸した場所で、最初はボザテライ・ベイ (貧しい湾) と名づけられたが、実際にはその名前とは反対に、川の沈積土の肥沃な土壌で、地下水位が高く、緩やかな傾斜の渓谷である。フルボダイのシャルドネとソーザイニオン・ブラン、そして素晴らしいゲヴェルツトトラミネルが造られている。かつてはニュージーランド最大のワイン産地で、ミューラー・トカルガウが主要品種だったが、シャルドネに取って代わられ、現在では、ニュージーランドにおけるシャルドネの首都といわれている。

(5) ホークス・ベイ (Hawkes Bay)

白：シャルドネが主、ソーザイニオン・ブラン、セミヨン、ピノ・グリ、ゲヴェルツトトラミネルなど  
黒：カベルネ・ソーザイニオンとメルロが主、ピノ・ノワール、カベルネ・ブラン、シラー、マルベックなど  
ニュージーランド第二のワイン産地であり、歴史上、商業目的のワイン生産が始まった最初の産地として知られている。ヘレタウガ平原 (Heretaunga Plains) ではニュージーランド特産の数々の果物が収穫でき、その周囲の丘陵の斜面では高品質なぶどうが栽培されている。肥沃な沖積土や砂利、川の沈積土などさまざまな土壌からトロピカルフルーツの風味をもったシャルドネやソーザイニオン・ブラン、また上品なリースリングやカベルネ・ソーザイニオンが造られ、高い評価を得ている。さらに、メルロとカベルネをブレンドしたボルドー・スタイルのワインにも著名なものがあり、シラーズ、ゲルナツシユ、サンジョゼーゼ、モンテラルチャーノ、ジンブレンデルなどの品種も導入され始めている。

(6) ウェリントン (Wellington)

白：ソーザイニオン・ブランが主、シャルドネ、リースリング、ピノ・グリなど  
黒：ピノ・ノワールが主、カベルネ・ソーザイニオン、メルロなど  
首都ウェリントン (Wellington) の北にある小さな地区。土壌はクック海峡を渡った南島のマールボロに類似した、排水性のよい粘土ローム質、沈積土、肥沃な沈泥ローム質。降水量が少なく、アルゴニエ南部の気候に似ているといわれ、冷涼な秋のおかげで、酸を失わずに、風味の凝縮したぶどうが得られる。ピノ・ノワール、シャルドネ、ピノ・グリの栽培に適している。唯一のワイン産地地区はワイラパ (Wairarapa) で、その中にあるサワ・リージョンのマートンボロ (Martinborough) はよく知られている。

2 南島

(7) マールボロ (Marlborough)

白：ソーザイニオン・ブランが主、シャルドネ、リースリング、ピノ・グリ、セミヨンなど  
黒：ピノ・ノワールが主、メルロ、カベルネ・ソーザイニオンなど  
ニュージーランド最大の産地。この地区に初めてぶどうが植えられたのは、1973年のことである。ニュージーランド最多の日照時間を誇る町ブレナム (Blenheim) を取り囲むワイラウ・ザレー (Wairau Valley) は川底跡で、砂利の多い土壌をもち、マールボロのソーザイニオン・ブランといえば、国際的にも品種特性の基準といわれるほど有名である。小石が多く、排水性に優れた土壌と、長い日照時間、涼しい夜間気温が、凝縮した風味のぶどう造りを可能にしている。これは、リースリングやカベルネ・ソーザイニオンにも共通する点である。また、シャルドネとピノ・ノワールから造られる瓶内二次醱酵によるスパークリング・ワインとリースリングの複雑味の貴腐入りワインも国際的な評価を得ている。

(8) ネルソン (Nelson)

白：ソーザイニオン・ブラン、シャルドネ、リースリングなど  
黒：ピノ・ノワールが主、カベルネ・ソーザイニオン、メルロなど  
多くの生産地がより乾燥した東海岸に位置しているのに対し、ネルソンは南島北西部の端にあり、ぶどう成熟期間は湿気が多く、マールボロと地理的に近い。土壌は川の流域に見られる黄灰色の粘土質。日照に恵まれ、果物、ホップ、煙草の栽培で知られていたが、現在では、ムテリ川 (Moutere) 上流部の渓谷や丘陵で特色あるシャルドネ、ソーザイニオン・ブラン、リースリングとピノ・ノワールが造られている。

(9) カンタベリー (Canterbury)

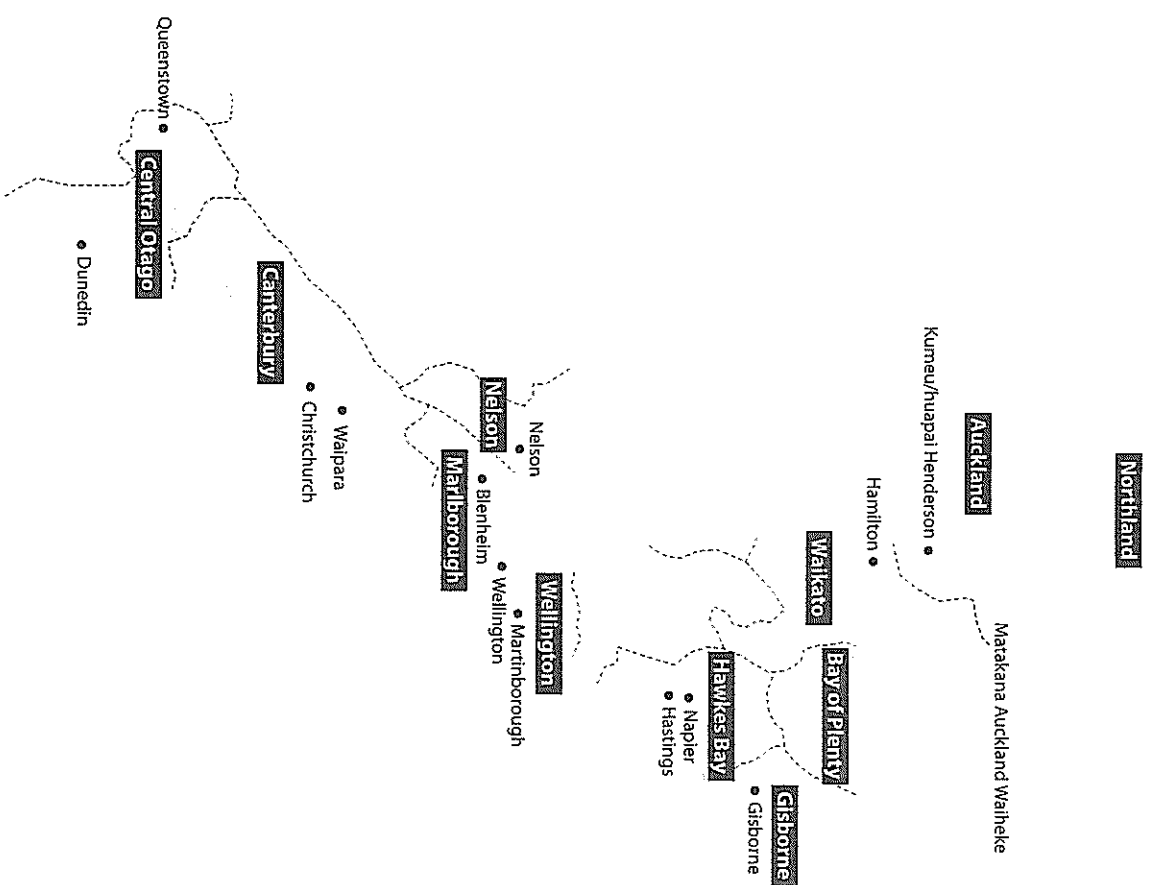
白：シャルドネが主、次いでリースリング、ピノ・グリ、ソーザイニオン・ブランなど  
黒：ピノ・ノワールが主、カベルネ・ブランなど  
リンカーン大学ワイン科学・飲料学部によって、多くのぶどうが試されたが、中でもピノ・ノワールとリースリングが出色であった。バンクス半島 (Banks Peninsula) とカンタベリー平原からなり、バンクス半島の方が暖かく、雨量は少ない。クライストチャーチ (Christchurch) 南部の平原は、北部の緩やかな丘陵地帯でも、やや肥沃な灰色の沖積土、石の混じった黄灰色の土砂などの土壌で、クライストチャーチ周辺とそこから車で一時間北に行ったワイパラ (Waipara) の2地区に分かれる。シャルドネ、ピノ・ノワール、リースリングの栽培に適しており、シャルドネとピノ・ノワールを使った瓶内二次醱酵のスパークリング・ワインの生産も進んでいる。いくつかのワイナリーはマールボロのぶどうを混醸している。

(10) セントラル・オタゴ (Central Otago)

白：シャルドネが主、ピノ・グリ、リースリング、ソーヴィニオン・ブランなど  
黒：ピノ・ノールが主

ニュージーランドで最も標高が高く、世界で最も南にある産地。この地区で初めてワインが造られたのは120年前だが、商業目的の生産は近年になってからのことである。ぶどう畑はセントラル・オタゴの素晴らしい景観のワナカ (Wanaka) とワカライア (Wakatipu) の湖の周囲に集中している。山脈の土砂が深く堆積した土壌で、暑い夏、寒い冬、さらに昼夜の温度差の大きい大陸性気候のもと、ぶどうの品質が高いことで知られている。全体的にぶどう畑の規模は小さく、冷涼な気候に合ったピノ・ノールを筆頭にシャルドネ、ピノ・グリ、リースリング、ソーヴィニオン・ブラン、ゲヴェルツトラムニールを栽培している。

### New Zealand Wine Regions



英：South Africa

# 南アフリカ

仏：Afrique du Sud

## I 概 略

南アフリカ共和国における2008年度のぶどう破碎量は1,425,612t、ワインの生産量は10,890,150Hl、ぶどう栽培面積は124,993haで、うちワイン用ぶどうは101,325haである。

ぶどう栽培地域のほとんどは西ケープ州の沿岸部に近い場所にあるが、同州の北部と東部の内陸部にあたるケライン・カルー、オリフアンツ・リヴァーでもぶどうが栽培されワインが造られている。地方間の気候の差は大きく、これが地方ごとに造られるワインのタイプやスタイルに多様性をもたらしている。

1918年に栽培農家に継続的かつ安定した収入を保証するため、南アフリカワイン醸造者協同組合連合、略してKWVが設立され、生産過剰の是正と出荷調整が行われるようになった。しかし、90年代中葉より徐々に統制は解除され、1997年にKWVは民間企業になった(2002年に完全に私企業化)。一方、1973年にはワインおよびその他のスピリッツ類を管理する委員会が発足して原産地統制呼称制度もつくられ、品質の管理や栽培地域、ぶどう品種、ラベルの規制などを行う機関として活動している。イギリスやカナダなど、かつてのイギリス領地域への輸出はわずかであり、大半は国内消費にまわされていたが、アパルトヘイト(人種隔離政策)が解除されて以来輸輸出が増加、2003年には全生産量の約3割の2,395,000hLとなり、1998年よりほぼ倍増した。

国内でも、ヨハネスブルクなどの大都会を中心に高級ワインの需要が増え、今まではワインをバルクで売っていた人も、自社のラベルで瓶詰めするようになった。国際的な需要の高まりを見越して、スイスやドイツからぶどう畑への投資も始まり、2008年現在では、ワイナリー数585以上、ぶどう栽培者数約3,839となっている。

また、ケープタウン周辺には固有の植物種が多いことから、2004年にケープタウン周辺の8つの保護区が「ケープ植物区保護地域群」として世界遺産に登録された。今ではワイン生産の90%近くがこの保護区の域内で行われている。このため、南アフリカのワイン業界は、国際的な環境保護団体などと協力し、Biodiversity and Wine Initiative (BWI) を設立。ぶどう畑の拡張に際しては、事前に植物相を調査保護し、貴重な植物群を守りながらぶどう栽培を進めていくための様々な取り組みが進められている。

## II 歴史・気候・風土・土壌

1652年にオランダ東インド会社のヤン・ファン・リーベックがケープに入植し、1655年ぶどうを植え、1659年に初めてこの地でワインを造った。しかし、実際にワイン造りの技術を向上させたのは、1688年ナントの勅令の廃止前後にこの地に亡命した栽培技術を持つユグノー派のフランス人入植者である。18世紀には、ナポレオン戦争によりフランスワインを輸入できなくなったイギリスを始めとしてヨーロッパ各地に輸出されるようになったが、1860年代には英仏関係が修復し、ワインに関する保護関税が撤廃されたため、輸出が困難な状況に陥った。さらにフイロキセラによる被害も加わり危機に見まわれるが、これは1910年にアメリカから苗木を導入して難を逃れることができた。同年南アフリカ連邦が成立したが、その後も生産過剰により販売が困難という時代が続く。1918年には、ワイン農家の利益を代表し、ケープのワイン産業の健全な発展を図ることを目的としてKWVが組織された。また、20世紀中ごろまで、農家の人々はワイン醸造をドイツ人やイタリア人から学んでいたが、正規の研究所が業界の有カメンバー達によって1955年、ステレンボッシュに開設の運びとなり、醸造用ぶどう並びに貯蔵技術などについても学ぶことができるようになった。

1970年代後半からは、ヨーロッパ優良品種の栽培に取り組みワイン農家が急増。品種を植え替え、より質の高いぶどうを栽培